

2011年7月17日

研究発表

<ポスター発表>

蓮尾隆一

研究発表の題目：なぜ、「新」彗星は明るくならないのか？

要旨(200文字程度)：遠くで見つかるような核の大きな彗星で、しかも初めて太陽に近づいており、揮発性物質を沢山含んでいると考えられる彗星の多くは、ある距離より太陽に近づくと明るくなる度合いが小さくなり、しかもダストテイルが殆ど観測されない。一方、いわゆるダストリッチな大彗星は、どれも遠日点距離が比較的小さく、過去に何度も太陽に近づいている。これらの事実を統合的に説明できるモデルとして、「新」彗星の表面にはダストを含まない(あるいはダストが少ない)、揮発性物質と水の氷からなる表層が存在するというモデルを提案する。

津村光則

研究発表の題目：1974年以降の主要彗星の写真

<口頭発表>

9:00～9:30

木下一男・中村彰正

研究発表の題目：2010年の彗星発見・観測のまとめ

要旨：2010年に発見・検出された彗星の発見データと軌道要素を一覧表にまとめて紹介する。17個もの彗星を発見したWISEや、活発なNEOサーベイ以外による発見が7個もあった。またメインベルト彗星が2個発見された他、発見時の日心距離の最遠記録が更新された。次に2010年に行われた位置観測のランキングを、観測者別、彗星別に示す。リモート天文台が1位になったことは、時代の流れを感じさせる出来事であった。

9:30~10:00

吉田誠一

研究発表の題目：2010年の主な彗星の光度変化

要旨(200文字程度)：2010年度に観測された主な彗星について、光度変化を振り返る。明るくなった彗星、突発的な変化を見せた彗星、特異な光度変化を見せた彗星などを紹介する。

10:20~10:50

佐藤 勲

研究発表の題目：彗星の名前の呼び方について

要旨(200文字程度)：彗星の名前には、発見者や軌道計算者の名前がつけられるが、外国人の名前の場合には、外国語に詳しくない人が適当に表記した間違った名前が広まり、混乱を生じている。来日のグリーン氏の証言も交え、この問題について議論したい。

10:50~11:20

佐藤 英貴

研究発表の題目：小惑星に「紛れた」彗星を探せ！

要旨(200文字程度)：自動サーベイによって発見された特異小惑星のいくつかは、追跡観測によりコマや尾が認められ、彗星として再分類されている。演者は海外に設置されたリモート観測所を用いて特異小惑星の観測を精力的に行い、2つの小惑星2009 UG89及び2010 WKに彗星活動を見出した。小惑星に「紛れた」彗星の搜索の軌跡を発表するとともに、そのメソッドについて検討したい。